



## Press Release

2025 年 3 月 18 日

※2025 年 3 月 11 日にドイツ・ヘンケル本社が発表した[プレスリリース](#)の日本語訳版です。プレスリリースは英語が原本であり、その内容・解釈については英文原本が優先します。

ヘンケル、サステナビリティレポート 2024 を発表

### サステナビリティ戦略の全分野でさらなる前進

- 気候変動への対策: 生産量 1 トン当たりの CO<sub>2</sub> 排出量を 64%削減(基準年: 2017 年比)
- 循環型経済: コンシューマー向け製品のパッケージ材に使用される再生プラスチックの割合が 25%に増加
- 機会均等: 育児休暇を取得する社員が 2024 年度中に大幅に増え、管理職全体に占める女性の割合が 42%に上昇
- 労働条件の適性化: 生活賃金の保障を目指し、世界規模で新たな評価制度を追加導入
- ガバナンス: 欧州サステナビリティ報告基準(ESRS)の全要件を満たす初のサステナビリティレポートを作成

デュッセルドルフ - ヘンケルは 2024 年度のサステナビリティレポートを 2025 年 3 月 11 日(火)に公開しました。ヘンケルは気候保護と循環型経済の両分野を中心に、多くの社会的課題に関してさらなる飛躍を遂げています。また今年はずでに、欧州連合(EU)が新たに発行した企業サステナビリティ報告指令(CSRD)および欧州サステナビリティ報告基準(ESRS)の内容要件を満たす報告書を自主的に作成しています。

ヘンケル最高経営責任者のカーステン・クノーベルは、「私たちはこの 1 年、サステナビリティ戦略の全分野において飛躍的な進歩を遂げ、具体的な改善を進めてきました。昨今の厳しい状況においてさえ、ヘンケルの根底をなす価値観が失われることはありません。それはすなわち、製品や製造工程、社会への貢献を通じて、持続可能な世界の実現に力を尽くすということです。このことは、2045 年までに温室効果ガス排出量の 90%削減を目指す私たちのネットゼロロードマップにも反映されています」と述べています。

また、人事、インフラサービス、サステナビリティ部門担当取締役副社長のシルヴィー・ニコルは、「サステナビリティに関するいくつかの重要な取り組みが着実に進んでいることを誇りに思います。一例を挙げますと、2024 年にはコンシューマー向け製品のパッケージ材に使用する再生プラスチックの割合を 25%まで増やすことができました。また、社員の性別を問わず最低 8 週間の完全有給を保障する育児休暇制度を全世界で導入していますが、これは大いに好評を得ています。さらに、

LOCTITE

TECHNOMELT

BONDERITE

Persil



ESRS の新たな内容要件に準拠したサステナビリティレポートを初めて作成したことも、社内のさまざまな業務プロセスの改善に大きく貢献しました」と述べています。

## 気候保護の新たな目標

ヘンケルは昨年末までに生産量 1 トン当たりの CO<sub>2</sub> 排出量を基準年である 2017 年比で 64%削減するとともに、調達電力に占める再生可能エネルギーの割合を 47%に増やしました。

また昨年は、過去に掲げた気候目標を上回る、バリューチェーンのより広範な部分を対象とした「[ネットゼロ目標](#)」を設定しました。ヘンケルはスコープ 1、2、3 の温室効果ガス(GHG)排出総量を 2045 年までに 90%削減することを目指しています。短期的な気候目標としては、2030 年までにスコープ 1 と 2 の GHG 排出総量を 42%、スコープ 3 については 30%削減する計画を進めています(いずれも 2021 年比)。この新たな目標は、パリ協定に沿った GHG 削減目標を設定する企業の支援に取り組む気候変動対策団体「Science Based Targets Initiative」(SBTi: 科学に基づく目標設定イニシアチブ)の認証を受けています。ヘンケルは 2024 年末までにスコープ 1、2、3 における GHG 排出総量の 20%削減(2021 年比)を達成しています。

バリューチェーンの脱炭素化を推進し、サプライチェーンにおける CO<sub>2</sub> 排出量(スコープ 3)をより正確に把握するため、ヘンケルは昨年、[全世界のサプライヤーを対象とするエンゲージメントプログラム](#) (リンク先英語)の取り組みを加速しました。同プログラムでは排出量データの収集に加え、排出量の削減に向けた具体策の決定を進めています。

## 持続可能なパッケージングのためのソリューション

ヘンケルはコンシューマー向け製品のパッケージ材に使用する再生プラスチックの比率をさらに高めており、その割合は 25%に達しています。今年末までに 30%の達成を目指しています。

ヘンケルの確かな歩みを示す例として、以下の 2 つが挙げられます。欧州では、液体洗剤とヘアケア製品のパッケージ材に占める使用済みリサイクル原料の割合を 50%以上に増やしました。これには Persil、Weißer Riese、Spee、Gliss 等のブランドの製品が含まれます。また北米では、液体ハンドソープ Dial(ダイアル)のパッケージを 100%再生プラスチック素材のものに一新しています。

ヘンケルのもうひとつの目標は、コンシューマー向け製品のパッケージをすべてリサイクル可能な素材にすることです。そうした製品の割合は 2024 年末時点で 89%に達しています。

アドヒーシブ テクノロジーズ(接着技術)事業部門が開発した革新的な接着技術により、ヘンケルは持続可能性に優れたパッケージングのための新たな基準を次々に設定しています。例えば、食品包装など多くの用途に使われる Technomelt(テクノメルト)ブランドの最新のホットメルト接着剤は、原料の 49%以上をバイオベース素材が占めています。また、この接着剤にはコンシューマーが製品を使用する際の電力消費を大幅に削減する効果があります。

## 機会均等と労働条件の適性化

多様性と平等性の分野におけるマイルストーンのひとつとして、ヘンケルは世界 47,000 名の全社員を対象とする**性別を問わない完全有給の育児休暇制度**を導入しています。保護者としての役割に基づいて最大 8 週間にわたる完全有給の育児休暇取得を保障するこの制度は、養子縁組や里親、LGBTQ+の親を含むすべての社員に適用されます。この制度は非常に好評を得ており、**育児休暇を取得する社員の数は全世界で前年に比べ約 30%増加しました。**

さらに、ヘンケルの管理職全体に占める女性の割合は 42%に増えました。

労働条件の適性化に向けた取り組みの一環として、全世界のヘンケル社員が自国の生活賃金基準に見合う報酬を安定的に受け取ることができるよう、**追加的な年次評価制度**を導入しています。

## サステナビリティの実践に対する外部機関の評価

ヘンケルのサステナビリティの取り組みは、今年度もまた外部の独立格付け機関によってその進歩を認められました。なかでも ESG(環境・社会・ガバナンス)格付け機関の EcoVadis 社からは、評価対象の上位 5%の企業に与えられる「ゴールドメダル」を授与されています。さらにはサステナビリティの実践により、同じく ESG 格付け機関の Morningstar Sustainalytics にトップ評価企業と認定されました。また、調査会社の Corporate Knights 社が選ぶ 2025 年の「世界で最も持続可能な 100 社 (2025 Global 100 Most Sustainable Corporations in the World)」にもランクインしています。またヘンケルは、長年にわたるサステナビリティ関連の優れた広報活動に対し、ドイツの F.A.Z. Institute 社と Cision Germany 社により 2024 年度 Sustainable Future Award(持続可能な未来賞)を授与されました。

## ヘンケルについて

ヘンケルはブランド、イノベーション、テクノロジーにより、産業およびコンシューマー向け事業において世界中の市場をリードしています。アドヒーズテクノロジーズ(接着技術)事業部門は接着剤、シーリング剤、機能性コーティング剤市場のグローバルリーダーとなっています。コンシューマーブランド事業部門は特にランドリー&ホームケアやヘアの分野において、世界中の市場やカテゴリーをリードする地位を維持しています。ヘンケルには 3 つの強力なブランド、LOCTITE(ロックタイト)、Persil(パーシル)、Schwarzkopf(シュワルツkopf)があります。2024 度の売上高は 216 億ユーロを超え、営業利益はおよそ 31 億ユーロでした。ヘンケルの優先株は、ドイツ株式指数 DAX のリストに入っております。ヘンケルには長いサステナビリティの歴史があり、具体的な目標を掲げた明確なサステナビリティ戦略を推し進めます。1876 年に創業したヘンケルは現在、世界に約 47,000 名の社員を擁し、多様なチームが強固な企業文化、共通の価値観とヘンケルの社員をひとつにまとめる共通基盤である企業目的「Pioneers at heart for the good of generations」の元に結束しています。さらなる情報はこちら [www.henkel.com](http://www.henkel.com) をご覧ください。

ヘンケルジャパンホームページ: <http://www.henkel.co.jp>

ヘンケルジャパンフェイスブックページ: <http://www.facebook.com/HenkelJapan>

— 本件に関するお問合せ先 —

ヘンケルジャパン株式会社 広報室 小野尾 秀美

TEL: 03-5783-1219 (広報室代表) / Mobile : 070-1548-4840

Email : [hidemi.onoo@henkel.com](mailto:hidemi.onoo@henkel.com)